

古い歴史を持つ町で考えたこと

福山平成大学

小川 長

現在ボクが勤務している福山平成大学は、広島県西部に位置する県内第二の都市、福山市にあります。その福山市の北西部と隣接する府中市は人口 34,537 人（2025 年 9 月 1 日現在）の、古い歴史を持つ自然豊かな内陸の町です。因みに、この府中という地名は 8 世紀の律令時代、全国統治のために中央政府の出先機関として設けられた「国府」の一つである「備後国府」に由来しており、このように府中と呼ばれる地名は、例えば「武蔵国府」のあった東京都府中市を始め、今も全国にいくつか残っています。

この広島県府中市で生産される、「府中味噌」や「府中家具」は全国的に有名で、中でもタンスの生産は江戸時代に始まった地場産業であり、特に、戦後のベビーブーマーたちが結婚適齢期を迎えた高度経済成長期には全国的に婚礼家具の需要が高まり、「府中タンス」は黄金期を迎えました。しかし、こうした団塊の世代の結婚ラッシュが過ぎ去った後、結婚件数が大幅に減少するとともに、住宅の洋風化によって下駄箱などの家具や、クローゼットが新築の住宅やマンションには予め据え付けられるようになり、婚礼家具を主力としていた府中市の家具産業は勢いを失っていきました。

また、府中市は古くから起業の町と言っても過言ではなく、上場企業だけ見ても「リョービ株式会社」、「株式会社北川鉄工所」、「北川精機株式会社」、「ヤスハラケミカル株式会社」の創業地は府中市であり、今も本社所在地は府中市にあります。また、紳士服業界最大手の「青山商事株式会社」や、中四国を中心に 24 時間営業の食品スーパーを展開する「株式会社ハローズ」の本社所在地は現在、福山市となっていますが、どちらも府中市で創業された企業です。

今年の初夏、それまでボクは知らなかったのですが、府中市で恒例の「国府まつり」が開催され、花火も打ち上げられるからと府中の方からお誘いを受け、集まった地元の方々と一緒にバーベキューを囲んで歓談しながら、花火を観賞していました。その席で、一人の方から次のような思わぬ質問を受けたのです、「先生、去年、府中市で生まれた赤ちゃんの数は何人だと思いますか?」。思い掛けない質問にボクが首を捻っていると、「去年、府中市で生まれた赤ちゃんの数は 135 人です。これでは、この町の将来が思いやられます」と聞いて、1 年間に生まれた赤ちゃんの数がそんなに少ないのかとボクは心から驚きました。

これを聞いて頭に浮かんだのは、国府まつりの少し前に訪問した府中市にある高等学校のことでした。現在、府中市には「府中高校」、「府中東高校」、「上下高校」と 3 つの県立高校があるのですが、一番生徒数の多い府中高校の 1 学年の定員は 200 名となっています。言うことは、もし去年生まれた子供たちが、このまま府中市に住み続け、全員が府中高校に進学したとしても府中高校の定員充足率は 67.5%となってしまう、その場合、他の 2 つ

の高校の入学者は0名になってしまうことになります。それも、これは遠い将来の話などではなく、彼らが高校に入学する15年後には確実に起きることだということです。

こうした愕然とするような現実を目の当たりにすると、他人事のように、地方の人口減少は問題であると世間並みに唱えてみたり、東京へ若い人が行ってしまうとか、若い人は経済的に苦しいから結婚せず子供を儲けないのではないかとかいったレベルの議論などを越えた、はるかに深刻な地域の存亡に関わる重大な問題であることがわかります。

こうした地域存亡の問題が国頼み、行政頼みだけでは決して解決しないことは、これまでの政府の長年の少子化対策の結果を見れば明らかなです。やはり、地域に住むわれわれが、この少子化問題を自分事として捉え、自分たちの地域の未来を自分たちの事として考え、自分たちで地域を守っていこうという気概を、自分たちが持たなければならないものと思います。それを理解し、それを実践できる地域だけが生き残ることができるのではないかとボクは考えています。

(付) この文章を書くために再確認しようと、府中市のホームページで「年齢別人口統計表」を閲覧すると、2025年9月1日現在の府中市の0歳の人の数は100人となっている。これは去年の出生数と単純に比較できるものではないが、少子化はより深刻な状況に向かっているのではないかと推測できる。悠長に構えている時間は、既にないということなのである。